

ことばあそび など

広田 誠 28期（塾講師）

サンマは魚である。
魚は漢字である。
ゆえに、
サンマは漢字である。



これは、昔、新聞のコラムにのっていたものだ。面白いのでメモしておいた。
私は黒板にこれを書いて、生徒さんたちに、

「何か問題ありますか。」とたずねる。

「だって、サンマは漢字じゃないよ」と言う生徒さんたちを制して、

「その結論にいたる筋道のどこに問題があるのでしょうか。……完璧な論理だ。サンマは漢字だったのだ！我々は今まで間違っていた。この現実を受け入れよう。」と、私は重々しく述べる。

しばらくすると、一人の生徒さんが次のような主旨の発言をする。

「二行目は、サンマが『魚という動物』にふくまれるということ。二行目は、『魚という字』が漢字にふくまれるということ。一行目と二行目の『魚』の意味がちがう。」

然り。一行目と二行目の『魚』の意味は異なる。冒頭四行の情報発信者は、本当は異なる意味を同じ意味のように示すことで、誤った結論を導いている。

もちろん、冒頭の四行では、情報の受け手は誘導されない。

この四行の場合（A）では、

- 1 語の意味が具体的である
- 2 結論が誤りであるとわかる
- 3 疑問の感情がおきる

だから、受け手は直ちに筋道の上でのおかしな点を探ることができる。

しかし、次の場合（B）だと、受け手はどうなるだろうか。

- 1 用いられている語の意味が抽象的あるいは専門的であり、すぐには分からない
 - 2 結論が、受け手への意思決定をうながす
 - 3 疑問よりも強い、不安・恐怖・嫌悪・怒りの感情がおきる
 - 4 これにより、情報の発信者は、受け手の意思決定を誘導することができる。さらに、発信者が、誘導の目的に反する情報を遮断し、目的に沿う情報を強調する
- これにより、誘導の効果をいっそう高めることができる。

この事例として、二〇二一年九月現在進行中のことがらを挙げる。

「PCR検査の陽性反応者数」と「コビット19の感染者数」とを同じ意味としてとらえ、各メディアは連日「感染者数」を報道している。

一方、厚生労働省の佐原審議官は、「PCR検査で陽性反応の判定は、コビット19の感染性の証明にはならない」と明言している（二〇二〇年十二月二日参議院柳ヶ瀬裕文議員の質問に対する回答）。ただし厚生労働省は、「PCR検査陽性者はコビット19感染者と同じ意味ではない」という見解を繰り返し国民に訴えないし、報道されている内容は事実を異なると異議を唱えることはない。また、PCR検査の脆弱性・偽証性についての科学論文要旨を国民に公表し、国民に判断の材料を示したりはしない。それは、厚生労働省の「シナリオ」にはない。

「感染症による死者数」についてはどうだろう。二〇二〇年六月一八日の厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部から都道府県衛生主管部への通達によると、「新型コロナウイルス感染症患者が死亡した時については、厳密な死因は問いません。新型コロナウイルス感染症の陽性者であって、入院中、療養中に亡くなった方については、都道府県で公表し、厚生労働省への報告を行うようお願いします。」とある。死亡時前後の、PCR検査陽性反応者を新型コロナウイルス感染症の陽性者とみなした場合、その数は「感染症による死者数」となり、実際の感染症による死者数を超えて肥大する。

「ワクチンによる死者数」はどうであろうか。二〇二一年二月下旬から八月上旬の期間でのワクチン接種後の日本の死者は一〇〇〇人を超えている。しかし、ワクチンが原因で死亡したと厚生労働省に認定された人の数はゼロである。

「感染症による死者」と同じ筋道で通達を出すすれば、「ワクチン接種者が死亡した時については、厳密な死因は問いません。ワクチンによる死者として集計します。」となるが、「専門家」と政府は、今後も接種と死亡との因果関係を認めないだろう。彼らの目的に沿わないからだ。真に公正厳密な精査が行われているかどうかは、遺族・国民には分からない。

どうして、こういう不明確は定義が通用しているのか。前述の場合（B）の1〜4が、目的に沿って稼働しているからである。この手法は、過去にも繰り返し用いられているものである。^(註1) 今回の状況にそっくりのシナリオは、二〇一〇年五月に公開されている。^(註2) 二〇一九年十月十八日には、パンデミックの予行演習「イベント201」がニューヨークで開催され、その中には言論統制もすべしとの意見が出ている。

パンデミックに関して、内輪の事情を正直に述べてくれた人がいる。米国大手メディアのディレクターであるチャーリー・チェスター氏は、「社長の指示でパンデミック死者数を誇張している。恐怖は金になる。次は気候変動で恐怖を煽る。」と述べた。^(註3)

政治・歴史・法律・学問・教育・宗教・金融・軍事・情報・医療・食糧・エネルギーなどを束ねる「高い」レベルの人たちは、低いレベルでの対立や混乱を定期的に起こしつつ、ネットワークを構成し、ゲームプランを練ってそれを実行してきた。（その目的に、彼らは「博愛」と名付けたりする。）そして、統治者が、被治者である民を蒙昧な状態にしておきたいと考えるのは、古今東西変わらない。^(註4)

しかし、インサイダーの企てを世界に訴える人が次々と現れている^(註5)。主流メディアの信用度・利用度は下がり、ビッグテックによる情報統制を忌避して自腹で情報を集めネットワークを組む人々が世界中で増えている。

草の根の日本人である私は、現在の統治者の用いる言語と論理に、いかがわしさを強く感じている。政治家、官僚、学者、メディア、財界、彼らのその権力の源は、つまるところグローバル勢力に行き着く。その価値観の中で認められることによって、彼らは立場を維持しようとする。彼らは、既存の価値座標軸の中で相対的な高い評価を得る能力には長けているが、座標軸の原点や軸そのものに懐疑を抱くことはまずない。そうすることの動機が彼ら自身にないようである。(その点で戦前と変わりがない。)

グローバル勢力の広報誌である英国エコノミスト表紙2019年では、日本人は鼻の伸びたピノキオの姿で表現されていた。日本人は、ナイーブで原理原則のない状況主義者で、同調圧力に依ってその場に合わせて発言する、というほどの意味であろう。しかし、ピノキオは後に目覚めて変身する。そして、この国の民衆は、イデオロギーとは無関係な、生活に根差した抵抗をいよいよ決心した時には、尋常ならざるしたたかさを発揮する。自衛のための合法的な土一揆の地鳴りを予感するのは私だけであろうか。

日本人は、分別知を駆使して自らの世界観を構築して内外に宣揚するようなことを本来あまりしないし、無分別智で直観的にわかっていることを、いちいちことばにしない。が、無意識ではあるが、普遍性のある価値観を内蔵している。例えば、ミハエル・エンデの「モモ」は読み続けられ、「世界で一番貧しい大統領」ホセ・ムヒカ氏の国際社会への警告や日本人へのメッセージに、多くの日本人は共感を覚える。主義主張が合うとうより、古層でつながっているのだ。この価値観を内蔵する人間は世界中で今なお多数派を占めるだろう。彼らとともに、行うべき仕事がある。(註6)

一方で、言葉と分別知と科学技術を駆使して、異分子を駆逐し、全体主義化を進める動きが加速している。そのお先棒を担ぐ「有能」な者たちが闊歩している。(註7)
諸君、時は来り。それぞれのやり方で、そろりと動き始めようではないか。

註1 「モッキンバード作戦」を検索。

『リーダーはなぜウソをつくのか』J・ミアシャイマー 中公文庫

註2 『技術と国際発展の未来のためのシナリオ』 ロックフェラー財団

註3 PROJECTVERTIAS.COM 二〇二二年四月二三日

註4 「民(ミン)」の字は、目を針で刺した様子を示す図であり、為政者が、被治者を蒙昧な(よく見えない)状態のものとしてあつかうことを示す。『漢字語源語義辞典』東京堂出版 P.1217

註5 例 『ピガノ大司教からアメリカ大統領への公開書簡』二〇二〇年十月二五日

註6 『ゲノムの語る生命』 第二のルネサンス 中村桂子 集英社新書 P.110

註7 カール・マルクスは、国際資本家を親戚にもち、彼らの厚い庇護のもと彼らの目的に沿って著述を行った。現在も、大勢の人々が、厚遇を受け国際資本家の目的のために働いている。